

第9章 事後調査の実施計画

第9章 事後調査の実施計画

事後調査は、三重県環境影響評価技術指針の「第14 事後調査の検討」に基づき、以下の事項に該当する場合について行うものである。

- ・予測の不確実性の程度が大きいもの
- ・効果に係る知見が不十分な環境保全措置を講じようとするもの
- ・環境保全措置の効果を確認するまでに時間を要し、継続的な監視が必要なもの
- ・環境影響の程度が大きいものになるおそれのあるもの
- ・その他必要と認められるもの

施設の運営・維持管理において実施する各種測定の実施項目を考慮し、本事業の実施に伴う環境影響に係る事後調査の必要性を検討した。事後調査実施の内容は表 9-1(1)(2)に示すとおりである。

表 9-1(1) 事後調査の内容

環境要素	環境要因	調査項目	調査地点	調査方法	調査期間
騒音	工事の 実施	資材の運搬車両の 走行による影響	予測地点 SV.5 地 点	「騒音に係る環境基準に ついて」(平成10年、環境 庁告示第64号)等に準拠	資材運搬車両が最大となる時 期に1回、24時間
	工事の 実施	地盤改良及び工作 物の建設に伴う濁 水の影響	予測地点 W1、W2	「水質汚濁に係る環境基 準について」(昭和46年12 月28日、環境庁告示第64 号)等に準拠	コンクリート打設工事期間中 (1回/月)
水質		土地の造成等に伴 う濁水の影響			仮設沈砂池設置後の1年目及 び造成工事の最盛期に1回以 上
	供用及 び存在	処理水の放流に伴 う影響			供用開始後1年間まで1回/ 月を基本として、水処理施設 の処理水の状況に応じて適宜 追加。
地下水	工事の 実施	地下水位の変化、 地下水位流動方向 の変化	観測井戸：2箇所 周辺民家：4箇所 程度	簡易水質計による方法等	供用開始後1年間まで4回/ 年を基本として、水処理施設 の処理水の状況に応じて適宜 追加。
	供用及 び存在	コンクリート打設 工事によるアルカ リ排水の影響			工事開始から工事終了まで
	地下水位 の変化、 地下水位流動方向 の変化	地下水位 ・地下水質：既存施設の地下水モニ タリング項目と同じとする	観測井戸：2箇所 周辺民家：4箇所 程度	簡易水質計による方法等 環境庁告示等	供用開始から終了まで (調査頻度は既存施設の地下 水モニタリング頻度と同様と する)
	工作物の供用・稼 働に伴う地下水質 への影響				

表 9-1 (2) 事後調査の内容

環境要素	環境要因		調査項目	調査エリア・地点	調査方法	調査期間
	工事の実施	樹木の伐採、土地の造成に伴う影響				
鳥類 (猛禽類)		<ul style="list-style-type: none"> 樹木の伐採、土地の造成に伴う影響 	<ul style="list-style-type: none"> 主にオオタカの生息・繁殖状況 上記以外に対象事業実施区域周辺で繁殖の可能性がある希少猛禽類が確認された場合には調査対象とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域及びその周辺 既知のオオタカカバネ銀ペリア営巣地周辺も含む 調査地点：3地点 	<ul style="list-style-type: none"> 定点観察法 「猛禽類保護の進め方〔改訂版〕」特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて」(環境省,平成24年12月)に準拠する。 	<ul style="list-style-type: none"> 営巣期：2～7月 同左文献資料を参考に、調査期間は工事着工から完了までの3年間で基本とする。
両生類・爬虫類		<ul style="list-style-type: none"> 樹木の伐採、土地の造成に伴う影響 	<ul style="list-style-type: none"> 保全エリアにおける両生類・爬虫類の生息状況 特にカエル類の繁殖状況を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保全エリアの谷津田 	<ul style="list-style-type: none"> 任意踏査による直接観察・捕獲により生息・繁殖状況を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> カエル類の産卵期：3～4、6、7～8月(各1回) 調査期間は、工事開始の1～3年目を基本とする。
昆虫類		<ul style="list-style-type: none"> 樹木の伐採、土地の造成に伴う影響 	<ul style="list-style-type: none"> 保全エリアにおける昆虫類の生息状況 特に止水域などに生息する水棲昆虫類などの生息状況を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保全エリアの谷津田 	<ul style="list-style-type: none"> 任意踏査による直接観察・捕獲により生息状況を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動期：5、6～7、10月(各1回) 調査期間は、工事開始の1～3年目を基本とする。
陸生植物		<ul style="list-style-type: none"> 樹木の伐採、土地の造成に伴う影響 	<ul style="list-style-type: none"> 動物の生息基盤にもなる保全エリアの植生変化を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保全エリアの谷津田 	<ul style="list-style-type: none"> 任意踏査により現存植生凶作、群落組成調査を実施し、植生変化の状況を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物繁茂期：7～9月(1回) 調査期間は、工事開始の1～3年目を基本とする。
淡水魚類		<ul style="list-style-type: none"> 樹木の伐採、土地の造成に伴う影響 	<ul style="list-style-type: none"> 移植植物のその後の生育状況 工事前に個体移動したホトケドジョウ、ドジョウのその後の生息状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 移植先生育地：計4箇所 真盛川：1箇所 保全エリアの細流：1箇所 	<ul style="list-style-type: none"> 任意観察による移植個体の生育状況を把握する。 タモ網を用いた任意採集により生息状況を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 移植時期：12～2月(休眠期) 移植後：4～5、6[*]、7～8、10月(活着期及び開花期) <small>※1年目のみ実施</small> 調査期間は、工事開始の1～3年目を基本とする。 活動期：6～8月(1回) 調査期間は、工事開始の1～3年目を基本とする。